

ワインレッドの瓦屋根と石灰石の街並み



ワインの女王の地にある世界遺産の街
サンテミリオン
Saint-Emilion

街の高台からは、サンテミリオンの街並みと、その先ひ広がる葡萄畑が一望できます。目に飛び込んでくるのは豊の波。時を重ねたワインレッド屋根瓦は、葡萄畑の緑に良く映えます。

建物は3階まで、外壁は石灰石に漆喰塗り。窓は観音開き戸、ときに上げ下げ窓。パリでよく見かける、真鍮製のバルコニーや亜鉛鉄板の屋根はなく、窓開口の装飾も見当たりません。とてもシンプルな建物が不揃いに連なります。

屋根瓦の先には、起伏のあるブドウ畑が地平線まで続いていました。



石灰岩の街を象徴する
モリス(一枚岩)教会



街を囲う中世の城壁

街は石灰岩の丘上にあります。

細い石畳の急坂やクリーム色の石灰石の外壁、なにより、石灰の一枚岩から切り出されたモリス教会が、それを象徴しています。

外壁の石灰石は、街の地下から切り出されたもので、地下には80haもの石切場跡が広がっているといえます。

街は中世の城壁に囲まれ、その外側に葡萄畑が広がっています。数百年前から、街は拡大することもなく、廃れることもなく、往時のままの姿をとどめている稀有な街だと思います。



石畳の急坂
街の至るところにある



街は城壁により周囲の葡萄畑としっかり区分されている

ボルドーワインは 高貴なほど繊細な葡萄畑から生まれる



シャトー・ラトゥールの葡萄畑
ガロンヌ川に向かい緩やかに傾斜している

ボルドー地方の葡萄畑は、驚くほど細やかに手入れされていました。
緩やかな起伏に沿いながら、清々しいほど整然と並ぶ葡萄の樹々。
その一本一本には、鋼索でつないだ添木をあてています。

「ワインの女王」と称されるボルドーワインは、高貴さが感じられるほど繊細な葡萄畑から生み出されているのです。ワインの蔵元、シャトーの伝統にとプライドが感じられます。



こんなシャトーが点在している



2~3年の樽熟成を経て出荷される

ボルドー地方は、3つの大河に沿って葡萄畑が広がっています。
フランス中央山塊から流れてくるドルドーニュ川、ピレネー山脈から流れてくるガロンヌ川、このふたつが合流して大西洋に流れでるジロンド川。

それぞれの川が上流から運んでくる土砂が異なるため、ドルドーニュ川右岸とガロンヌ川左岸では土壌が異なり、それぞれの土壌に適したワインが作られてきました。

ガロンヌ川左岸は、上流をグラブ地区、下流をメドック地区と総称されますが、標高が低く砂利質の土壌で、カベルネ・ソーヴィニオン種が適しているといわれます。左岸の赤ワインは、カベルネ・ソーヴィニオンを主体としたもの多く、シャトー・ラトゥール、シャトー・マルゴーなど、世界のワイン通が羨望する醸造所が集まっています。

ドルドーニュ川右岸は、石灰岩の台地に粘土質の被さった土壌で、その中心がサンテミリオンです。土壌はメルロー種が適しているといわれ、右岸の赤ワインはメルロー主体のものが多いです。世界一のメルローと評される、シャトー・ペトリュスは、右岸ポムローム村にあります。

[まちあるきの考古学](#)

